

KSKS

ニューズレターあすく

NO.25

編集人 NPO 法人 あすく



工房あすく 家族の想い ～親と支援者の協働のために～



西澤いずみ

私の娘は現在 26 歳です。高校を卒業し就労継続 B 型事業所に通いましたが、問題続出で 1 ヶ月で退所することになりました。

それから半年の間、行く所もなく、家にこもりがちで、困り果てている時に担当医に薦められたのが「工房あすくネクスト」でした。

週 2 回 1 日 2 時間弱から始めて、やがては週 3 回から週 4 回となり、7 年かけて今では週 5 回通える様になりました。もちろん、何の問題もなくきたのではありません。問題だらけでしたが（そして今も現在進行形ですが・・・）、その都度無理せず、とにかく通って行ける事を一番の目標とし対応して頂いたお陰で今に至っているのだと思います。今でも毎日休まずにとはいきませんが、様子を見ながら臨機応変にして頂き、親も気負うことなく通わせる事ができます。こんな日々の中で今回、家族会の役員を経験した中で、改めて思うことがありました。

あすくの利用者の方々は通所の仕方や時間、障害の特性などが個々に違い、個性にあふれています。その中で、あすくでは一人一人に応じた活動やプログラミングを心がけることを目指しておられます。これは本当に有り難い事です。が、たやすい事ではないであろうと思います。実際の支援の場では、「ああしたい」「こうしたい」という思いがあっても様々な理由で理想通りにはいかないというジレンマが多々あるのではないかと感じました。この先人手不足の問題など、ジレンマを引き起こす要因が解消されていけばいいなと切に思います。

親でしかわからない、だからこそ求める事があります。それを支援者の方にきちんと伝え耳を傾けてもらおう。また、支援する側からでしか見えない事や必要だと思える事があるでしょう。それをきちんと話してもらい、耳を傾ける。それをすり合わせていけば、一人一人に応じた支援につながるのではないのでしょうか。

あすくが、利用者本人にとって、安心できる楽しいと思える場所であるよう、皆で話し合いながら協力することが大切であると改めて思う機会となりました。

これから、娘が年を重ねていっても、いつまでもそういう場所があってほしいと願ってやまない今日この頃です。